



地は中世の面影を留め、なおかつ現代の人々が居住するにふさわしい環境を整えつつある。インフラ整備による住環境の改善と住宅供給を積極的に押し進めることがその課題だ。どこまで歴史を保存し、どこまで環境改善のために手を加えるのか、これは歴史遺産をもつ都市の共通のテーマであるわけだが、ベルレベルクの旧市街地の場合は、特に居住人口密度が高かった時代に建てられた密集住居の環境改善が問われている。

建物が中庭を取り囲む街区は、美しい街並みの形成とオープンスペースを持つすぐれた住環境の双方において有効である。この中庭部分が、増築・付属建物や石炭・家畜のための小屋などによって埋められていた時代があったが、これらの建物を撤去し、本来の中庭型のすぐれた住環境を取り戻すための改築が行われて

いた。中庭に張り出した部分は、通りに面した建物の改修によって整理する。我々が見学した何の変哲もない中庭のひとつも、こうした経緯を経て取り戻された環境のひとつであり、その足元にはかつての痕跡が「まちの記憶」として残されていた。まだ緑も十分に育っていないその殺風景なオープンスペースは、光や風といった根源的な自然を居住者にもたらす重要な役割を取り戻していたのである（写真17）。

しかし、ひとくちに整理するといっても、建物のオーナーとは別の借家人が居住しているケースもあり、変化を望まない住民たちの抵抗に押し切られて成功しなかった事例も多く、決して一筋縄ではない。オーナーの改修に対する関心と、改修時に提供できる借家人のための集合住宅（改修後そのまま住み続けることも可能）、建替え資金としての補助金の獲得とこれに見合った諸条件の整備、そしてなによりもこれらをトータルにオーガナイズできる経験豊かなプランナーの存在が不可欠である。ウィットテンベルゲやベルレベルクの再開発地区では、こうした重要な役割を民間の現地再開発管理事務所が一手に担っている。

中庭の環境に話しを戻すならば、もうひとつ重要な駐車場の問題が解決されなければならぬ。見学した中庭のケースでは、通りに面した空家が撤去されたままの状態で放置され、以後オーナーの意向のままに駐車場と化している一区画がある。しかしこの状態は連続する建物の街並みを崩すばかりでなく、通りとダイ

レクトにつながることで静寂な中庭の環境が脅かされるという理由から、オーナーを説得し近々建物を建てる予定になっていた。

では駐車場は一体どこに設けることになるのか。通常中庭を整備する場合は、これを取り囲む住宅のための駐車スペースと、子供の遊び場や休息のためのスペース、緑地などとの共存を考えて計画することになる。すなわち、さして大きくもない中庭には、住戸数に見合った駐車場はなかなか設けられない。新築や改築の場合は、住宅の1階にガレージを組み込んだり、あるいは共同の地下駐車場などを設けて対処しているようだが、旧市街地における駐車場は完全に確保しきれないのが現状のようだ。

ブリクニッツのリーダーとしての役割

駐車場の問題はさることながら、市が最も恐れるのは、歴史都市としての保存が街の空洞化につながることである。いずれの面においても、ウィットテンベルゲより遙かに条件に恵まれたベルレベルクの街ではあるが、やはりその脆弱な経済基盤において他の多くの東ドイツの都市と大差はない。経済的に成立していく上での産業基盤の見直しに、時間をかけているゆとりはないようだ。伝統建築を数多く残し、街並み保存を行っていくことは、一方で今の時代に必要とされる大きな空間をいかにして得ていくかという課題と拮抗する。

ベルレベルクは統一後も、短い期間だ

け要塞の都市であった。その軍事基地は今では本来の機能を失い、新しい目的のための施設として活用され始めている。住宅や行政施設への機能転化や、その広大な敷地や建物を利用した、市民以外にも開放したフットボールのグラウンド、クライダーの練習場、スポーツセンターなどへの再生である。商業施設としての利用も検討中だが、街の経済成長が緩慢であることや、古い建物の取り壊し、加えて汚染された土壌回復に莫大な予算を要するなどの理由によって、計画はなかなか実現に向けて動いていない。

しかし市がこのような計画に尽力するのは訳がある。ベルレベルクは今、自身の目的のみならず、ブリクニッツ郡の他の都市をも先導する立場に立たされているからだ。

ベルレベルクを訪れる観光客は少しずつ増えているものの、この街に宿泊しない通過客がその大半を占める状況の中で、1都市だけの魅力で観光産業を成功させることは非常に難しいという。

ウィットテンベルゲなど近隣の他の歴史都市をも含めて、広域的な視野に基づいた長期的な計画の中、サービスの提供や、観光アピールの展開、もしくは観光や産業を誘致するための開発方法などに対して相互に協議し、総合的に活性化を図ろうとする「タウンネットワーク」の概念が数年前に誕生した。

「タウンネットワーク」は同格の都市の連携というよりはむしろ、都市のクラスに応じた役割分担を課していくもので、ベルレベルクは郡都としての顔はさ